

長年の取り組みが県政を動かしました！

## 県の子ども医療費助成 拡充へ



蒲島知事は十二月県議会で、全国最低水準であった熊本県子ども医療費助成制度の対象年齢を、来年度から引き上げることを表明しました。

子ども医療費助成制度は、子どもの通院・入院費用の負担をなくすために県と市町村が折半で負担している制度ですが、熊本県の場合は4歳未満児までしか助成しておらず、全国最低水準でした。

### 議会で繰り返し拡充を

### 要望してきた山本県議

そのため山本のぶひろ県議は議員一期目の最初の一般質問でこの問題を取り上げ、以来毎回のように議会のたびごとに、質問や質疑、討論の機会を通じて対象年齢の拡大を求め続けてきた。

した。また、新日本婦人の会をはじめ

市民団体からも請願が繰り返し県議会に出され、7万人を超える署名も届けられるなど、県の対応改善を求める声が強くなり、県の対応改善を求める声に強く寄せられていました。また、次第に他会派の議員からも「全国最低水準はよくない」「市町村でアンバランスが生じており、県の責任で引き上げるべきだ」などの声も広がってきていま

### 委員会での山本県議の論戦から

### 感染拡大で医療体制ひっ迫

### 医療体制拡充への支援を

厚生常任委員会で山本県議は、コロナ感染の急拡大で医療体制がひっ迫している事態を受け、体制強化のための

知事の答弁によると、来年度から通院費は就学前まで、入院費は義務教育期間まで対象年齢が広げられることとなります。

山本県議は一般質問で、県の決断を「心から歓迎」と評価したうえで、全国的には高校3年生まで助成している県があることなども紹介し、さらなる努力を県に求めました。

支援を緊急に強化するよう求めました。

### ゴミ減量で燃やすゴミ減らせ

また特別委員会で山本県議は、カーボンニュートラル実現のためにも燃やすゴミを減らす取り組みを推進すべきだと訴えました。

議会議会最終日

## 山本県議、議案に対する反対討論で三度登壇

### 全国最悪水準の

### 教員不足改善求める

令和3年度決算認定に対する反対討論で山本のぶひろ県議は、熊本県の教員不足が小学校で全国ワースト2位、中学校でワースト1位となっている（文科省調査）結果を指摘し、教員不足の解消に重点的に取り組むべきだと訴えました。

山本県議は、県独自の取り組みが重要であるとして、非正規職員の正規化と待遇改善、県独自の学力テストの中止などにより現場の負担を増やさないよう改善することなどを求めました。

### 五木村振興策は

### ダム建設と切り離して

五木村振興推進条例の一部改正提案に対し山本のぶひろ県議は、「そもそも現在の条例でも、『五木村の振興に熊本県が最大限の努力をしていく責任があ

る』と強調されているのに、なぜ今あえて条例を改定する必要があるのか」と指摘したうえで、新たな条例は「新たな流水型ダム（川辺川ダム）の建設受け入れを前提としている。さらに振興計画の策定には、これまでになかった国の関与が盛り込まれた。これでは国の意向に対し村は異議が唱えられなくなる。あくまで村民が主役となった五木の村づくりを、県と国が支援するという形にすべきだ」と強調しました。

### 県独自の個人情報保護制度

### を後退させるな

山本のぶひろ県議は◎旅行支援キャンペーン事業、◎個人情報保護法改定に伴う条例制定、◎空港アクセス鉄道の推進事業―に対する反対討論に立ちました。デジタル関連法で、企業による個人情報の利活用のために行政のビッグデータが狙われています。国が地方自治体独自の個人情報保護のルールをリセットし、国の基準に一元化することを求めて

## 1月の法律相談会のお知らせ

日時 1月26日（木）13時30分より  
場所 山本のぶひろ生活相談所  
（中央区渡鹿5丁目19-7）  
弁護士 久保田紗和さん  
（熊本中央法律事務所）  
申し込み・お問合せは 362-5181 まで。

# 日本共産党 山本のぶひろ 県議会だより

2023年  
1月新春号

熊本市中央区水前寺6丁目18-1  
電話096-3333-2647  
ファックス 385-0255  
HP「日本共産党 山本のぶひろ」

## 県民に寄り添い、共同し、ともに前に進むために 新たな年も全力で頑張ります 山本のぶひろ

たとえ一議席であつても、県民の願い実現へ一歩でも県政を動かす。そんな思いで必死に一日一日を送ってきました。物価高騰やコロナの感染拡大、災害など、暮らしや営業を脅かす苦難が続き押し寄せてきているだけに、ますます日本共産党の議席の役割は重大になってきていることを感じます。

悪政とは真正面から対決し、一致できる課題では積極的に野党や市民の方々と共同して力を合わせ、展望の持てる社会の実現をめざして、これからも全力で奮闘してまいります。  
新たな年も、どうぞよろしくお願い申し上げます。



### 12月県議会 山本のぶひろ県議が一般質問

#### 旧統一協会関連イベントの名義後援 県は過去にさかのぼり取り消しを

反社会的カルト集団・旧統一協会による被害は、今現在も熊本県内においても発生しているとして山本県議は、家族が統一協会に洗脳されたという方からうかがった話を紹介。蒲島知事と白石教育長に対し、「統一協会が反社会的カルト集団という認識があるのなら、関連団体がおこなってきたイベントを名義後援してきたことは誤りであったということ

を明確にし、過去にさかのぼって後援を取り消すべきだ」とせまりました。

#### ダムでは命も環境も守れない 新たな川辺川ダムの中止を求める

川辺川に新たに建設するとされている流水型ダムによる洪水調節で、生息する希少動植物が死滅することや沈泥の堆積を引き起こす可能性について

これに対し、知事も教育長も、「過去の名義後援は誤りであったとは言えず、取り消しはできない」と回答。山本県議は、「同じ言葉被害家族の面前で言えるのか」と答弁の撤回を求めましたが、知事は同じ答弁を繰り返すばかりでした。

また令和2年7月豪雨レベルの洪水で、人吉市街地の球磨川に存在する中州（中川原公園）によって水位が2メートル上昇することが判明した、との土木学会論文を紹介し、中川原公園の撤去を求めるべきだと提起しました。

#### 「熊本の宝」地下水の涵養域減少 地下水保全のための協定締結を

世界最大手の半導体企業・TSMCによる工場建設・新会社設立に熊本は沸き立っていますが、一方で懸念されているのは熊本の「宝」である地下水の問題です。新会社は一日一萬二千トンもの地下水をくみ上げて使用すると言わ

れており、枯渇や汚染が懸念されます。  
山本県議はこれからも地下水涵養地域での開発促進が予想されることなど指摘したうえで、専門家による検証や地下水保全のための新会社との協定締結を県に求めました。



質問に立つ山本のぶひろ県議

の報告が国から行われたことに関し山本県議は、すでに2年以上前から共産党として、たとえ流水型ダム